私たちの〝青春〟を返せ

CO患者家族の会の一会員――三上成美さん（30才）が、一一・九の抗議大集会の席で朗読した手記は、ただCO患者とその患者を抱えた家族のくらしの悲惨さを伝えたばかりでなく、資本の合理化、安保体制下のわが国の攻治のもつ反労仂者的な性格を鋭くつきつけた。ここにあえて、そのなかから抜すいし、本紙を購読していただいている皆さんにお伝えすることとした。（夫の悟さんは、現在九大病院に入院中）

十一月九日――忘れることのできない、八年前の今日。

あれほど優しかった夫の笑顔はついに返らないのだろうか。

あのときすでに私のおなかのなかには、夫と私との分身の一つのいのちが、確かな心音を響かせながら息づいていたというのに。

だれを、ひとはうらめというのか。そのいのちが赤ちゃんとして生れ出る前に、その父親の夫の方が赤ん坊のように幼い人間に押しもどされてしまったのだ。

よろこぶべきことなのか、それとも悲しむべきことなのか、月満ちて私は女の子を生んだ。純子と名づけた。

それからというもの、幼な児のために昔の夫をとりもどそうと、どれほど心を砕いた私だったろう。やがてむくわれる日のくることだけを、信じて。

忘れもしない爆発から三年目の昭和四十一年秋のこと、七百三十八人のCO患者に対して、政府は資本とぐるにり、労災補償を打ち切ってきた。ほかの五十七人の人々とともに、なお経過観察をつづけるということで、かろうじて補償をうけてきた夫なのだが、一時的な経過観察などでどうなるというのだろう。夫らのCO患者はもちろんのこと、同時に悲惨な人生につき落とされた家族たちの苦しみなど、わかってくれてはいないのだ。

朗読する三上成美さん

夫の体の奥の深いところで何がどんなにかわったものか、あれから八年、目の前の私がかって自分と深く結ばれていた妻であり、純子がかけがえのない自分のいのちの分身であることを知ってくれない夫。この人が、なぜ自分の夫でなければならないのだろう。なぜ純子の父親でなければならないのだろう。

結婚してから半年足らずだった私。二人で生活することの悦びがこれからだった私たち。

こんな悲惨を見ようともせず、政府は、こんどは夫たちに対して治癒認定を押しつけようとしているのだ。もしも労災補償が打ち切られ、家に帰されてくることにでもなれば、この先私は、幼な児同然の夫に何をしてやればよいのか。

純子に、父らしい父を返せ！
私に、もとのままの夫を返せ！
二人に、うしなわれた青春を返せ！

マル生大会中止

【運合】十一月十六日、全国鉄生産性大会委員会は、同月二十七日、東京・両国の日大講堂で予定していた生産性大会を中止すると声明した。しかし、今後ともマル生運動を進めると述べている。

詩　私は知っている

山口　末松　孝

私は知っている
自分の名が書けず
自分のとしがわからず
親の名も子の名も
そして妻の名をも
想い出せずにいた
男たちのことを

私は知っている
自分の部屋がわからず
今読んでいる本の頁を
めくるごとに忘れ去り
ひとけたの足し算ができず
球戯に打ち興じては疲れても
休息をとることを知らず
飯がのどにつかえるまで食べつづけても
箸を置く術を知らずにいた
男たちのことを

私は知っている

三井三池炭鉱の坑内で、
八百人の男たちが
一酸化炭素中毒に冒され
四百五十八柱の命が坑底に
果てた日が
一九六三年の
十一月九日であるということを

×

末松さんはかって、大牟田労災病院で、マッサージ師として働いていられるとき常にCO患者の側に立って努力してくださった方です。いまは「山口県柳井市下向毛・周東総合病院」で働いていられますが、こんどこの詩を三川指導部十一分会に送ってくださいました。あえて作品とともに、ご紹介することにしました。（編集部）

〝三池じん肺会〟立つ

一一・九抗議大集会の日に　闘いに支援求めて

一一・九大集会で、参加者に実状を訴えるじん肺会会長

「俺たちも〝前収補償〟と〝解雇制限〟を勝ち取ろう。資本によって、かけがえのない体の尊い機関の一部をコンクリートのように」

「俺たちにも、それを要求する当然な権利がある」――として〝三池じん肺会〟が立ちあがったことは本紙でもすでに伝えられている。

そのじん肺会は、十一月九日の三池災害八周年抗議大集会を迎えて、その会場にあてられた市の体育館に、その決意をタスキがけの姿にこめて立ち、集会に参加してくる人々に、自分たちの運動を支援してくれるように訴えた。

三池じん肺会（会長は向井芳夫さん）は、会員約百十人。ほかに三池新労組関係の患者を中心に組織された〝不知火桂友会〟（桂友会の〝桂〟の文字が、とくに桂であることに注目していただきたい。会長は松本登さん）が二百二十一人。潜在患者のあることを思えば、この大牟田だけでも、じん肺患者は相当な数にのぼろう。

とりあえずじん肺会としては広く世論に訴えながら、要求を資本政府にぶっつけてゆく一方、関係自治体に対し切実な救済措置をとるよう働きかけてゆく。

なお抗議大集会の日、多数の支援署名と共に、三池じん肺会に対してはげましのカンパが一万千二百十八円も寄せられた。

私書箱三号

会社はおおあわて　出はこれからだ!!

闘いと共に歩く職場の新聞

三池の同志へ

岐阜　西岡　俊成

三池の皆さん、団結集会のおりは大変ご迷惑をかけました。

私等岐阜県代表は、三池に行くにあたって非常な困難がありました。私等の組織はわずか十名足らず。しかも財政的に困難を続けているために、出発の最後の日まで資金カンパを続け、寄せ書集めに走りまわり、出発のメドがついたのはやっと出発の日の六日の晩頃でありました。こうした困難に打ち勝ち、岐阜の羽島で〝こだま〟に乗りこんだときは、なんともいえない興奮を覚えました。

わずか三日間の三池滞在でありましたが、私等には一カ月にも値するものを学びました。

あの三日間の総括のようなものを、三池の皆さんに語りたいと思います。

団結集会に参加する目的は、私等が追及してきた階級的サークル運動の構築を、全国の仲間に知らせたいということ。

このサークル論について、社会党・社青同に少しばかりグチをいいたかったこと。

三池の闘いを学び、受け継いで行くこと。

各職場の情勢を知ること――でありました。

第一の点については、少しばかりではありましたが、発言することができました。

次の点については、少しいいすぎたように考えます。まあ少しぐらいきびしく批判する方が、運動は成長するものです。

第三の点については、本当に三池を学ぶことができました。これを岐阜県の運動の中心に、どのように生かして行くか、今後追及して行きたいと考えます。

第四の点については、各単産、とりわけ国労のマル生がどのようなものであるかを、国労の池田さんが発言を行ないました。合理化攻撃がいかに大変であるかを知ることができました。

各単産からは、資本の手によって行なわれているZD運動、QCサークル、レクリエーション活動による思想攻撃をどのようにして打ち敗かすかが、一応問題としてだされました。こうしたなかにも私等の追及している問題が、必ず認められるという確信を持ちました。

また九日に、泰代ちゃんの読む日記を聞いて目頭の熱くなるのを覚え、資本に対する怒りが一段と強まり、CO闘争の勝利をさらに強く願う気持になりました。

これから私等は、沖縄返還協定粉砕に向けて闘って行きます。

以上のことを総括して、三池の仲間に報告します。

三池の皆さん、本当にありがとう。

×

西岡さんは〝第五回全国青年団結集会〟に、岐阜県代表として参加、もちろん抗議集会に私たちとともに顔をつらねた人で、住いは「岐阜県本巣郡北方町、長谷川県営住宅C5－2」です。

夜明けめざして……

尼崎　清水　一路

私は、CO患者を守る会の一会員です。働いているのは、住友金属という独占の職場です。幾多の困難にぶつかり、何とか切り抜けながらやっております。

この四月私は仕事中に腰痛になり、会社に申しましたが「現認者がいない」「その日にいわなかった」ということで、認められませんでした。

やむを得ず労基署へ申請し、仲間と共に闘いを進め、やっと九月末に「業務上認定」を勝ちとりました。このため会社はあわて、沢山の職制を動員し、反響をおさえるためにおおわらわです。

このように、巧みな労務管理・職制支配の徹底した現状では、とても闘いの輪を広げる事はむづかしいのですが、やらねばならないし、それをしない以上私達をしめつける鎖を断ち切る事はできないので、仲間と闘っています。

私達の夜明けはまだまだ先のようですが、闘いの輪が広がる事はそれが近づく事です。頑張って下さい。私達、社青同住友尼崎班同盟員も頑張ります。

×

清水さんの住いは「尼崎市稲葉荘四丁目一六の二六」です。